

平成21年度学校自己評価表(西武学園文理小学校)

平成22年 3月

目指す学校像	日本人としてのアイデンティティを持った、世界で活躍する良識溢れる人材を養成する
重点目標	「心」「知性」「国際性」の3点を身につけた児童の養成を重点とした授業展開、生活指導体系の確立

達成度	A	ほぼ達成(80%以上)
	B	概ね達成(60%以上)
	C	変化の兆し(40%以上)
	D	不十分(40%未満)

学校自己評価					
年度目標			年度評価		
No.	課題項目	具体的な方策	課題項目の達成状況	自己評価	次年度への課題
1	より高い学力養成を実現する学習指導力の向上	教科会・教科代表者会議をひらき、教員が児童の学力定着度を正確に把握する。	業間休みや放課後を使った補習等により、定着度が高まりつつある。	B	学年・教科の枠を超えた情報交換の場を、さらに活性化させ、学習プリントの内容等を精査しながらさらなる指導力の向上を図る。
		教職員研修・学習支援講習会等を実施し、指導内容の統一を図りながら指導力向上を促す。	教員間での情報、意見の交換が活性化してきた。	B	
		前年度の指導計画書や学習プリントなどの資料を有効活用する。	学年、教科によって活用に差が見られたが、充分活用された。	A	
2	小・中・高一貫教育体制の確立	小学校完成年度である。小中高一貫教育の流れを各教育課程を超えた教員の交流等により確立を図る。	中高教員を招き入れさらに、中高授業を見学、定期的な話し合いの場を設け、一貫教育の流れがほぼ確立された。	A	中学校に一期生が進学するので、中学での一期生の中学校での学習、生活内容を把握し、本校での指導にフィードバックし、一貫教育のカリキュラムの確立を目指す。
		新教育課程を踏まえて、小中高の一貫カリキュラムを作成する。	23年度実施に向けて大まかな枠組みを検討したが、確立するまでには至らなかった。	C	
3	主体性の確立を目指した生活指導の実践	基本的な生活習慣を身に付けさせ、自ら進んで元気に明るく挨拶する習慣の確立を図る。	指導により多くの児童が身につけているが、児童の一部に不十分な点が見られる。	B	すべての児童が何らかの公共交通機関を、利用して登下校をしている。マナー、ルールを守れない児童もいる。基本的な生活習慣の確立と思いやりの心を育成することにより、マナー、ルールの遵守を図る。
		縦割り活動・ペア活動を通じて、互いに協力し、他人を思いやる優しい心を育成する。	業間休みや給食・清掃活動時等に下級生に積極的な声掛けをしたり、思いやる行動が見受けられた。	B	
		教職員は「共通理解」「共通行動」で実践指導を行う。	非常勤も含め、全教職員に共通理解事項の印刷物を配布し、実践することにより共通した指導ができています。	A	
4	国際理解教育の推進	日本人としてのアイデンティティを養うために、日本の伝統的な文化(礼儀、作法等を含む)の理解を図る。	授業の一環としての茶道や和食の作法講習等を通じて、日本の伝統的な文化の理解を深める教育を実践しているが、現状での理解度は浅い。	C	イマージョン授業や海外研修旅行を通じて、異文化理解への道筋はできつつある。日本人としてのアイデンティティ養成の授業や講習内容については、まだ検討が必要である。
		海外研修旅行を通して、語学力の伸長や異文化理解などを促進する。	当該学年全員が参加し、異文化を体験吸収し国際人としての素養が身につけてきた。	A	
		英語授業のほか、音楽・図工・体育のイマージョン授業の基本体制を確立させ、教育の推進を図る。	英語に親しみ、英語好きになる児童が、多くなるような工夫は見られたが、確立には至っていない。	B	
5	三位一体教育(児童・学校・保護者間の理解促進)	学校の諸活動における趣旨説明を丁寧に行い、保護者の理解を深めるよう努める。	保護者会や学校行事等の諸活動で説明を行ってはいるが、一部にまだ不十分な面が見られた。	B	保護者への本校の教育活動に関する趣旨説明をさらに徹底し、理解・協力を得る努力が必要である。
		教員間での報告、連絡、相談を密にし、情報の共有化をはかる。	概ね、情報交換・連絡はスムーズに進められたが、一部に改善の余地はある。	B	

学校関係者評価
意見・要望など
成績下位者への対応のし方(補習等)に対して、学校の考え方と保護者の考え方に若干の差異がみられるので、さらなる授業のフォローアップが求められている。また、一部に学習指導計画と異なる部分が見られるので、改善を求められた。
小中高一貫教育の流れについては、理解できる内容になっている。一期生が中学校に進学したので、このデータ活用し、指導システムを点検して、よりよい授業連携の構築を願う。また、中学校の見学に関する意見も寄せられている。
概して問題なく理解を得ることができているが、「挨拶」「マナー」等の基本的な生活習慣については、保護者にも現状を話し、協力を得よう努める必要がある。
海外研修旅行での細部にわたる情報の公開が求められている。実践するに当たっては、情報提供への十分な配慮が必要である。
学級間による情報伝達に対する差のあることが指摘され、改善の声がある。学年・学校での統一した情報伝達が求められている。